

促成イチゴにおけるICTを活用した収量・品質向上に向けた取組み

八代地域は県内有数の施設園芸産地であり、促成トマトではICTを活用した環境モニタリングシステムの導入により大きく増収した事例が見られます。

しかし、当地域の促成イチゴでは導入実績がなかったことから、八代支部では、環境モニタリング装置を活用した「ハウス内環境の“見える化”」と生育診断による「生育の“見える化”」を行うことで、県育成品種「ゆうべに」の収量及び品質向上を図る取組みを始めました。

取組初年度である今作は、環境モニタリング装置を5ヵ所に設置し、各ほ場のハウス内環境データを収集するとともに、生育診断の指標を検討するために「草高」や「新葉の展開位置」等の生育調査を実施しています。特に、生育調査を生産者自身に行ってもらうことで、調査項目や測定方法の改善点が見えてきました。

今後も関係機関で一体となって調査に取り組み、各種データと収量との関係を検討していきます。そして、ハウス内環境のモニタリングと生育診断に基づいた栽培管理の有効性を高め、地域に普及することでイチゴの生産安定を図っていきます。



左上：環境モニタリング装置
左下：生育調査の様子
右上：連携会議の様子